

# Living Water

Kwassui Gakuin



長崎の地に  
蒔かれた  
女性教育の種

143

数字の秘密は4ページへ





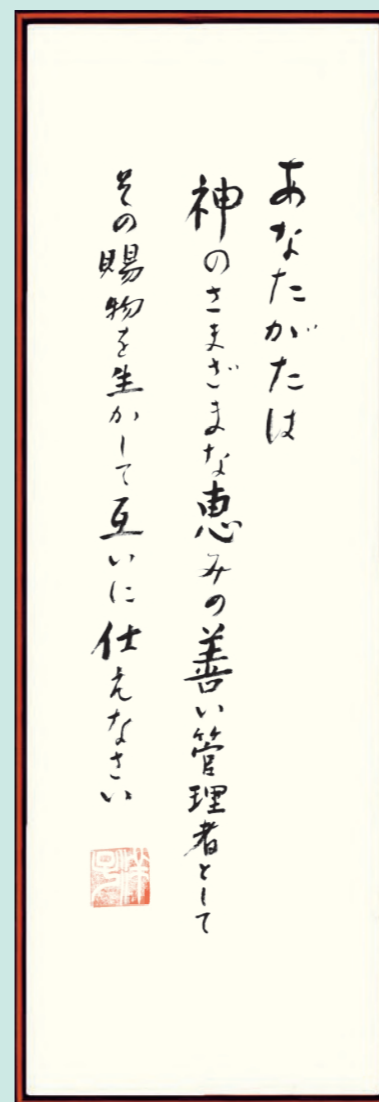
# 子どもたちに注いだ ラッセル先生の愛と祈り

活水女園の起りは、1893（明治26）年の自然災害によって両親を亡くした子どもたちのためにエリザベス・ラッセル先生が熊本九品寺白川教会の隣接地に孤児院を設けたことに端を発する。その5年後熊本から福岡県古賀村（現古賀市）に移転する。この土地の寄贈者は衣笠（旧姓大村）マスオ（1892年活水女学校高等科卒）である。古賀村の土地は15,000坪という広大な敷地面積を有し、子どもたちが健やかに成長する姿をラッセル先生は見守り続けた。1906（明治39）年、古賀村から長崎県大村玖島郷へ移転し、大村活水女園として再出発する。現在の日本キリスト教団大村教会に隣接する。幾多の歴史を経て、熊本、福岡、長崎（大村）と移転をしたが、ラッセル先生の子どもたちに注いだ愛と祈りは色あせることなく引き継がれていった。



「大村活水女園」  
古賀村に献堂した建物の資材を用いて、その姿のまま大村に再建。  
1906（明治39）年「大村活水女園財団法人」となり、孤児となった女児の救護のみならず、その後の養護や教育にあたった。

## 聖書のことば



2022年度 学院聖句  
ペトロの手紙 I 4章10節

2022年度の学院聖句は私たちに「人間とは何者なのか?」、また「何のために生きるべきなのか?」を教える箇所です。人間とは神様の「善い管理者」であること、また互いに仕え合う者です。そこで何をもって仕え合うべきか、それは神様から与えられている賜物です。それを神様の「恵み」と言っています。人間は神様の賜物を用いて互いに奉仕する者であり、そこに生きる意味があります。他人から預かった資産などを、責任をもって管理運用することを「ステewardship」(stewardship)と言いますが、奉仕の精神をもって生きることこそ、私たちが存在する大きな理由であります。

## 目次

- 2 聖書のことば
- 3 子どもたちに注いだ  
ラッセル先生の愛と祈り
- 4 長崎の地に蒔かれた女性教育の種
- 6 新しい一歩を活水から
- 7 世界に広がるラッセル先生の愛
- 8 中学一高校を通して培われた  
活水の平和学習が花ひらく
- 10 Alumnae（アラムニー）  
「姉妹で活水」特集
- 12 先輩たちの今 Close up ①
- 14 大学授業最前線①
- 15 サークルアクティビティ①
- 16 院長のライブラリー
- 17 2022年度 NEW FACE
- 18 中期計画の骨子と KWASSUI VISION 2029  
寄付者ご芳名
- 20 My memory

## 活水学院報の名称を一新します

校名の由来となった「活ける水」(Living Water)を学院広報誌の新名称としました。学生・教職員の投票で最多票を獲得したものです。

## 表紙

表紙の銅板は、東山手キャンパス大チャペルの正面の右壁に設置されている。創立60周年を記念して同窓会から寄贈。制作者は彫刻家の日奈子実三氏。  
出典：活水学院百年史 P182



活水学院報題字：藤原 朱石

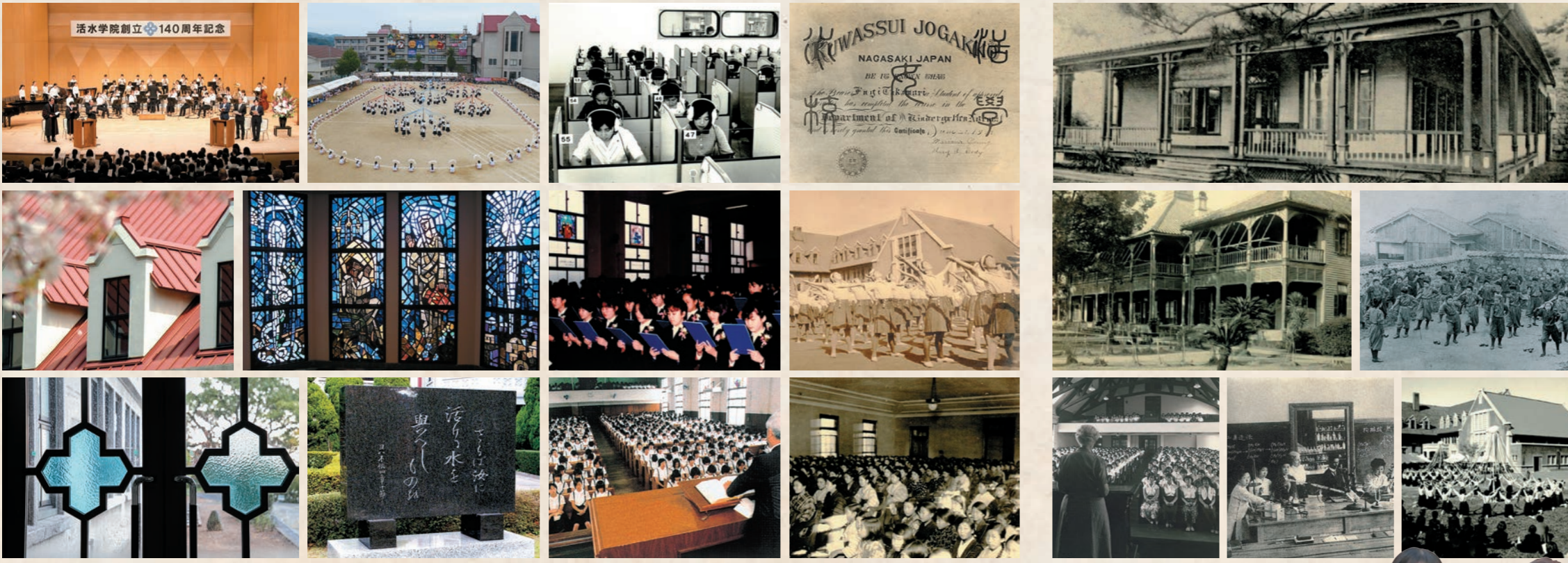


長崎の地に蒔かれた女性教育の種

# 「個性と人格」を 育んできた 143年の伝統

Since 1879

- 1879年(明治12年) エリザベス・ラッセル宣教師、活水女学校を創立する。
- 1887年(明治20年) 活水女学校に初等科・中等科・高等科・神学科・技芸部をおく。
- 1919年(大正8年) 活水女学校大学部を改組して、専門学校令により活水女子専門学校を設置し英文科をおく。
- 1922年(大正11年) 活水女学校専門部に家政科をおく。
- 1947年(昭和22年) 新学制により、活水中学校を設置。
- 1948年(昭和23年) 新学制により、活水高等学校を設置。
- 1950年(昭和25年) 学制改革により、活水女子短期大学を設置し、英文科・家政科・音楽科をおく。
- 1951年(昭和26年) 活水中学校・高等学校の校舎を竹の久保(現在宝栄町)旧鎮西学院校舎を再建して移転。
- 1977年(昭和52年) 活水女子短期大学に日本文学科を設置。
- 1979年(昭和54年) 創立100周年を迎える。
- 1981年(昭和56年) 活水女子大学を設置し、文学部に英文学科・日本文学科をおく。
- 1991年(平成3年) 活水女子大学に大学院文学研究科英文学専攻修士課程を設置する。活水女子短期大学家政科を生活学科に名称変更する。
- 1994年(平成6年) 音楽学部を設置。
- 1998年(平成10年) 活水女子短期大学に、専攻科食物栄養専攻(2年制)を開校。
- 1999年(平成11年) 創立120周年を迎える。
- 2001年(平成13年) 文学部日本文学科が現代日本文学科に、音楽学部は演奏学科・応用音楽学科の2学科になる。大学文学部英文学科が英語学科に、短期大学英文科が英語科に名称変更する。
- 2002年(平成14年) 健康生活学部食生活健康学科を設置。
- 2003年(平成15年) 活水高等学校に英語科新設。
- 2004年(平成16年) 健康生活学部生活デザイン学科・子ども学科を設置。
- 2009年(平成21年) 看護学部を設置。創立130周年を迎える。
- 2010年(平成22年) 音楽学部音楽学科を設置。
- 2018年(平成30年) 文学部を国際文化学部、現代日本文学科を日本文学科に名称変更する。国際文化学部を英語学科と日本文学科の2学科とする。
- 2019年(令和元年) 創立140周年を迎える。



創立者  
**Elizabeth Russell**  
エリザベス・ラッセル (1836-1928)

1879(明治12)年、出島メソジスト教会の要請に応える形で来日し、長崎到着わずか1週間後の12月1日に、活水を開学しました。最初の生徒はたった1人でしたが、深い信仰と豊かな愛によって日本における女子教育の草分けともいえる活水学院の礎石がおかれたのです。その後、40年に渡ってキリスト教精神に基づく女子教育をはじめ、女兒を引き受けて養育する施設「活水女園」を開設するなど児童福祉活動にも献身されました。オハイオ州の墓碑には東山手キャンパス大チャペル正面右壁にある記念銅板と同じ言葉が刻まれています。  
If you could see it, you would find the girlhood of Japan written on my heart.  
(もし、私の心を見ることができれば、日本の娘、と書いてあるだろう)

〈永石莉里子さん〉  
高校時代ミネソタ州セントポールに交換留学したことがいまの自分の礎です。国際基督教大学(ICU)に進学しオーケストラ部で活動。またインターシップとして、アプリ開発の支援をしています。姉の菜々子も活水からICUに進学し昨年から社会人。私も就活を控えています。活水で学んだ人の心に寄り添う思いを胸に、さまざまな挑戦をしています。

〈池田陽子さん〉  
私たちが三代活水レディ  
—— 活水で育んだ他者への共感と連帯 ——  
聖書に触れる当たり前の日常、讃美歌の美しい旋律に心が洗われる日々が半世紀を超えてよみがえります。いまは大浦の教会で開かれる子ども食堂やバザーのボランティアをしています。奉仕によって得られる果実はかけがえのない喜びです。

〈永石有希子さん〉  
ネイティブの先生に学んだ英語の授業が一番  
の印象。当時の文法中心の英語教育とは一線を画すもので、使える英語を学ぶ楽しさは知的好奇心をくすぐるものでした。活水で過ごした8年間テニスに明け暮れた日々。みな、明るく元気で時に羽目を外すこともありましたが、まさに天真爛漫、幸せな青春の日々。女性の自立という無形の財産を得ることができた大切な1ページです。



## 三代をつなぐ十字の座標軸

(右から)  
永石有希子さん  
活水女子短期大学家政科食物専攻卒業 / 第37回生  
池田 陽子さん  
活水高等学校卒業 / 第14回生  
永石莉里子さん  
活水高等学校卒業 / 第71回生

親から子へ、孫へ託されたバトン、学院で育んだ麗しき宝物は、活水のDNA。他者への共感や連帯そして湧きあがる知的好奇心。これらのDNAを横軸に、そしてキリスト教精神が縦軸となって十字の座標軸を手にすることができました。目に見えない、だからこそなによりも強くしなやかな道しるべです。



ご入学  
おめでとう  
ございます



# 世界に広がる ラッセル先生の愛

**Q** 先生は本学の卒業生ですが、本学に入学したきっかけは？  
**富永先生（以下先生）** 高校生の時、キャリア教育の一環で、青年海外協力隊がアフリカで日本語を教えているというお話を聞いたことです。とても魅力的に思え、将来は海外で日本語を教える仕事をしたいと思うようになりました。活水では日本語教育を学ぶことから入学を決めました。今は日本語教育に関する研究をしており、大学時代の学びが基盤になっています。

**Q** 本学で学ぶ留学生のことを教えてください。  
**先生** 留学生はとても優秀です。大学内の活動や日本人学生との交流、アルバイト等を通じて自己実現を図っています。留学生という呼び方をしましたが、本学では留学生も活水生として日本人と同様に分け隔てなく接します。国際交流の視点でいえば、留学生との距離が近いという点は他学にはないアドバンテージです。他学では、通



留学生と日本人学生の交流活動

常講義と留学生対象の講義に分かれていたり、多人数の講義では日本人学生と留学生で自然にグループが分かれたりすることがあります。一方で本学は少人数教育を徹底しており、同一環境・同一講義スタイルです。留学生と日本人学生は、出身地が違うだけ、みな等しく活水生として一緒に学んでいます。

**Q** 留学生にとって、本学の特色とは？  
**先生** 留学生といえますと言語系の学科で受け入れることが多いのですが、本学ではさまざまな学科で学んでいます。日本文化学科地域ビジネスコースに関心を有する留学生もいます。母国でご家族が商売をされており地域ビジネスに興味を持ったようです。日本人学生と一緒に地域ビジネスを学ぶことは、双方に刺激や異なる見方、考え方を共有できるという利点があります。

**Q** 高校生の皆さんへメッセージをお願いします。  
**先生** 世界各地で活躍する卒業生が多いことは本学の特徴です。私は本学着任前、中国の大学や日本語学校で日本語を教えてきました。客室乗務員に日本語研修をする機会がありました。その時の航空会社の研修担当者の方も活水の卒業生でした。東京では、出版社で働いている卒業生とも出会いましたし、教育委員会等で働く卒業生もいます。

業生もおります。各所で卒業生の活躍をみてきましたが、ラッセル先生の教えが時間空間を越えて私たちの世代まで受け継がれているのだと思います。多様な立場でキャリアを磨く女性を育成すること活水生に皆さんをお迎えすることを楽しみにしています。



着物体験



**富永 祐子 先生**  
2020年より、国際文化学部日本文化学科講師。日本語教育に関する研究の傍ら、活水で学ぶ留学生、日本語教師を目指す学生への教育に尽力。海外の大学（中国）、日本語学校、日系企業などで日本語教育に携った経験も持つ。自身も卒業生であり、後輩に対する深い愛情を持ってラッセル先生の教えを伝えている。

創立者エリザベス・ラッセル先生の愛は、今では日本だけではなく世界にも広がっています。  
活水生女子大学では、これまでに多くの留学生が学び世界で活躍しています。日本と離れて生活をしている彼女たちを優しく指導し、ラッセル先生の教えを伝えているのが、本学教員の富永祐子先生です。今回は富永先生に、留学生とのエピソードや、今取り組んでいる研究、本学の国際交流の取り組みについてお話を伺いました。



著者：そらの瑠璃色  
1997年短大英文科卒。  
アロマコーディネーター、いやしのカウンセラー。  
リンパドレナージュセラピスト、インストラクター。  
著書「平気なふりをしている心へ」



出版社：幻冬舎  
発売日：2020/12/4

## 新しい一歩を活水から

いまから四半世紀前に活水学院で学生生活を始めて出会ったことば。

さらば汝に流れる水と与へしものを  
わたしが与える水は、その人のうちで衆となり、永遠の命に至る水がわきあがらう。

この言葉は苦境にある時でさえ心のなかに秘められた泉は枯れることなくその音がもつ輝きを生み出すというもの。この活水の教えに出会ったからこそ、自分のなかにある創造性を信じる事ができました。皆さんの心のなかにある泉の存在を信じて、個性豊かに多様性にあふれ生きてゆくことができましたようにお祈りします。

2020年、世の中にはコロナ禍へと突入し、これまでの価値観が覆されるような不安定さを増してきたそんなころ、一冊の本を執筆しました。こんな世だからこそ、自分と向き合うことの大切さを感じてほしいと思います。不安な心と向き合う折々に、この本を手にとっていただければ幸いです。

そらの瑠璃色





平和への祈り  
ナガサキから世界へ

# 中学—高校を通して培われた 活水の平和学習が花ひらく

主よ、わたしをあなたの平和の道具としてください

活水中学校と高等学校は、戦後もなく創立の地  
東山手から爆心地に近い浦上の丘に移転し、平和  
への祈りと行動の文化を培ってきました。この新  
たなスクールアイデンティティーは、卒業生たち  
によって、大学でも根付きはじめています。

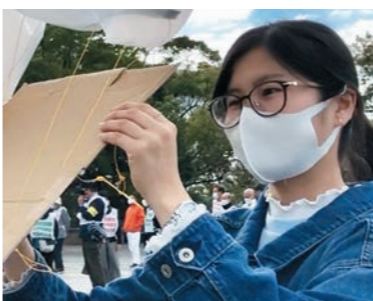
## ボランティアでの学び

高校時代から、長崎市青少年  
ピースボランティアとして活動  
してきた小川さん。コロナ禍で  
の制約にもめげず、これまでの  
ように学習会や研修、そして昨  
年から被爆者と英語の被爆体験  
記を読み進める活動も行ってい  
ます。



## 次世代へ想いをつなぐ

おがわ ゆき  
小川 由姫さん  
活水女子大学  
国際文化学部英語学科4年



平和ボランティアに取り組む小川さん

このように幅広い活動に精力的  
に取り組む小川さんは、いま

## 高校での二つの出会い

小川さんの出身小学校は被爆  
校の銭座小学校。平和学習に積  
極的な学校です。そんなバック  
グラウンドを持って入学し、高  
校でも長崎原爆に関して学び続  
けたい、何か行動したいと考え  
ていた時に、平和学習部、そ  
して長崎市青少年ピースボラ  
ンティアとの出会いがありました。  
そしてもう一つ、小川さんが

## 「すごい」に違和感

こんな小川さんに対する印象  
を先輩の人に聞いてみると、ず  
ば抜けた存在感と影響力を持っ  
ている、ということでした。  
一方で、小川さんには周囲の  
人から「すごい」と言われるこ  
とへの違和感があるといいます。  
「私はあくまでも楽しんでやって

## 若者の課題

### —継承と関心

終戦から77年が経とうとする  
今、次世代への歴史の「継承」  
が課題となっています。小川さ  
んはボランティア活動とは別に、  
今後は継承活動に取り組みたい  
と思っています。そこで交流証  
言者（被爆者と直接交流した上  
で、その体験を継承する人）と  
して被爆の実相を語り伝えられ  
るよう、現在、ある被爆者の体  
験をまとめている最中です。  
このような継承に関する若者  
の関心を高めることもまた、小  
川さんの課題となっています。

## 若者は微力じゃない

やまくち ゆきの  
山口 雪乃さん  
活水女子大学  
国際文化学部英語学科2年



## 同世代の若者とともに

高校生の平和活動である「高  
校生一万人署名活動」に所属し、  
平和大使としても活動していた  
山口さんは、大学生になった現  
在も、週に一度、この活動を支  
援する市民団体「平和活動支援  
センター」で、ボランティアと  
して活動しています。その傍ら、  
これまでに培った人脈を活か  
し、沖縄や広島、海外の大学生  
とともに、平和教材づくりや、  
国際シンポジウムの準備にも取  
り組んでいます。

また、先輩の中村涼香さん（上  
智大学3年）らが首都圏で展開  
する「KNOW NUKES TOKYO」  
のメンバーとして、核兵器禁止条  
約や、締約国会議の認知度を上  
げるために企画された「模擬  
締約国会議」の運営にも携わっ  
ています。

## 先輩たちが輝いていた

山口さんもまた、平和学習部



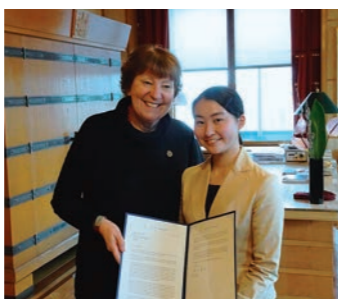
核兵器廃絶に取り組むノルウェーの非営利団体「  
Nei til Atomvåpen」を表敬訪問  
前列中央 山口雪乃さん、右隣 中村涼香さん

に所属していましたが、この部  
はいわばポータルサイト。部員  
たちは、ここが提供するチャン  
ネルを活かし、様々な社会活動  
に参加していきます。  
そんな活生の姿が、中学時  
代の山口さんにはとても輝いて  
見えたといいます。高校入学後  
すぐに入部を決めたのもそんな  
理由からでした。

山口さんを「KNOW NUKES  
TOKYO」の活動に誘った中村

## ノルウェーで見た市民社会

山口さんの転機の一つに平和  
大使としてノルウェー（オスロ）  
を訪問した経験があります。



オスロ市ボルゲン市長と山口さん

オスロ市長をはじめ、女性が  
活躍する社会、高校生たちの社  
会活動・意見表明が普通に認め  
られている学校教育など、そこ  
には成熟した市民社会の姿があ  
りました。市民が、若者が、国

## 核廃絶にどう関われるか

高校生一万人署名活動のス  
ローガンは「微力だけど無力  
じゃない」というものでした。  
しかし、山口さんはあえて「若  
者は微力じゃない」と言います。  
その言葉の裏には、オスロへの  
訪問や若者の国際的なオンライ  
ン会議を企画・運営した高校時  
代の経験から感じた、若者の力  
への確かな手応えがあります。  
その一方で、若者たちの関心  
を高めることが今後の課題だと  
考えています。その課題解決の  
手始めとして、「核兵器廃絶」  
の動きに若者がどう関われるの  
かを気軽に語りあえるプラット  
フォーム作りに取り組むそう  
です。  
山口さんの活動に若者の賛同  
が広がることを期待したいと思  
います。

主よ、わたしをあなたの  
平和の道具としてください

## 聖フランシスコの平和の祈りの一節

イタリアのアッシジでお生まれになった、フランシスコ会  
（フランチェスコ会）の創設者として知られる聖フランシス  
コ（フランチェスコ）に由来するお祈りです。



「姉妹で活水」特集

大学での出会いと経験が私を変えてくれました。妹にもそんな出会いがあるといいな

国際文化学部英語学科  
2022年3月卒業

古賀由里子さん

姉

私が入学を決めた理由は、「英語を学習することによって、自分の知らない世界を知り、自分の将来の選択肢を広げたい」と思ったからです。大学生活はとても充実しており、自分の知らなかった自分自身に出会えた4年間でした。英語はもろもろのこと、入学するまで私にはなかった積極性を身につけることができました。在学中に大きく成長できたと思う経験は広告メディア研究会というサークルに所属し、さまざまなプレゼンコンテストに参加し、発表を行ったことです。入学前の私は、自分から何かにチャレンジしたり、人前で発表したりということは避けてきました。しかし、大学で出会った友人との交流からサークル活動をし、自分で企画したことを発表することで、周囲の人が認めてくれること、関心を有してくれることに楽しさややりがいを見つけました。サークルの先輩から学ぶことも多くありました。仲間たちと協力し、一つの

妹と吹奏楽部でともに切磋琢磨した日々は家族みんなの宝物です

健康生活学部生活デザイン学科  
2022年3月卒業

全 恩恵さん

姉

活水学院に通い、活水高から大学へと進学しました。活水の思い出はその9割が部活動です。中学時代から吹奏楽をしていたこともあり、活水高でも吹奏楽部へ入部、妹も同じく活水中で吹奏楽部へ入部を決めました。中一、高一と同じスタート地点でこの活水吹奏楽部が一新したタイミングで共に携われたことは本当に奇跡のようでした。さまざまな大会やイベント、演奏会と一緒に参加することが多かったため、両親含め家族も楽しんで演奏会に来てくれることが多くありました。楽器やパートは違いますが、その分楽しんでくれたと思います。ともに高校、大学へ進学したときも、お互い活水吹奏楽部であったため、学院として一緒にの大会に出ることや、高校のゲストとして大学生が出演することもありました。違う学年であっても、こうやって繋がる場があるというのが学院の素晴らしいと改めて感じます。また、姉妹で同じ学校へ通うこ

発表を創りあげること、自主性や責任感を身につけられたこと、この経験はこれから先、私の将来にも大きく役に立つでしょう。妹も学科は違いますが、活水に入学し学生生活を送っています。在学中に私が経験したように、多くのことを学び、経験を増やすことで自己成長を感じる日が来るのだらうと思います。新しく出会う友人と共に、さまざまな生活を送って欲しいと思います。また、在学中ずっとサポートしてくれた家族に本当に感謝しています。これから先、活水で学んだことを胸にチャレンジすることを忘れず頑張りたいと思います。



とで、友人、勉強、部活動など共通のものも多く、家での会話が増え、家族の雰囲気もより明るくなったような気がします。私は大学を卒業することとなります。7年間、姉妹でこの活水へ通い共にこのような経験ができたことに感謝を忘れず、過ごしていきたいと思っています。在学生・在校生の皆さん、コロナ禍で今はまだ苦しい状況もあり、不安もあると思います。しかしここ活水で出会う仲間が生涯の仲間になります。この状況乗り越え、一皮むけた強い人間になれるよう、今できる勉強、部活動に精一杯取り組み、後悔のないよう過ごして欲しいと思います。応援しています。



姉とは学部は違いますがいろいろな相談や情報を共有できてとても心強いです

看護学部看護学科2年

古賀 智子さん

妹

私が看護学科に進学した動機は、長崎医療センターに隣接し学内の施設が充実しているということを知ったからです。また、姉から学校生活を送るなかでさまざまな話を聞いたことにより、姉と同じように活水で学びたいと考えたからです。大学に入学しますと、高校と大学では、さまざまなことが違い慣れないことばかりで大変でした。ですが、生活に少しずつ慣れてくるとうまく対応できるようにになりました。活水で一年間過ごして感じたことは、施設がとても充実しているということ。週一回、看護技術の授業が行われますが、看護の現場を体験することができ、座学では学べないことであり、新たな気づきや、学びを深めたりすることができ、姉妹で活水に通っていますと情報共有がしやすいという利点や、わからないことを姉に聞けるメリットがあります。私が、活水に行くこと決めた時に、両親は入学への背中を押してくれま

中高で培った経験を糧にこれからの大学生活をもっと充実させたい

健康生活学部  
生活デザイン学科2年

全 アンナさん

妹

私は中学から活水に通い、今年で7年が経ちました。姉が活水高に行くという理由で、活水中に入学し、姉につられて吹奏楽も始めました。私の活水での一番の思い出は、吹奏楽。中学生になり、初めて部活に入り、初めて楽器を演奏し、初めてコンクールに出る。活水の吹奏楽部に入って、多種多様な経験をしました。またまた入ったこの部活で、いきなり全国大会に出ることになり、想像もしていなかった日々が始まりました。中高生活は、部活がすべて、そのなかで素敵な仲間と出会い、素敵な経験をし、人間的にも成長出来たと思います。もともと人見知り、人前では話すことができませんでしたが、しかし、これらの経験を通して、人前で話すことや、表現力を身につけることができたと感じます。また、部活ばかりしていた私にとって、部活メンバーは家族よりも長い時間を共にする仲間、そんなかけがえのない仲間にも恵まれ、素晴らしい中高校

した。両親は姉から学校生活の話を聞いており、丁寧な指導で評判の学校ということを知っていたためです。これからもこの活水で日々学びながら、夢を実現できるように頑張っていきます。



生活を送ることができました。当時の私は、部活漬けの日々で遊ぶことができない生活が苦痛でした。しかし、今思えば、この部活をしていた日々が青春そのものであり、なにかに向け一所懸命頑張ることは素晴らしいことだったと思います。泣いて笑ってまた泣いて……6年間を思い返しますと戻りたいと思うこともありますが、残り少ない大学生活3年間、これまでのことを生かして、将来に向けてたくさん知見を増やし経験を重ね、充実した毎日を送っていきたく思います。活水中高として活水女子大で学べる幸運を胸に秘めて。





先輩たちの今

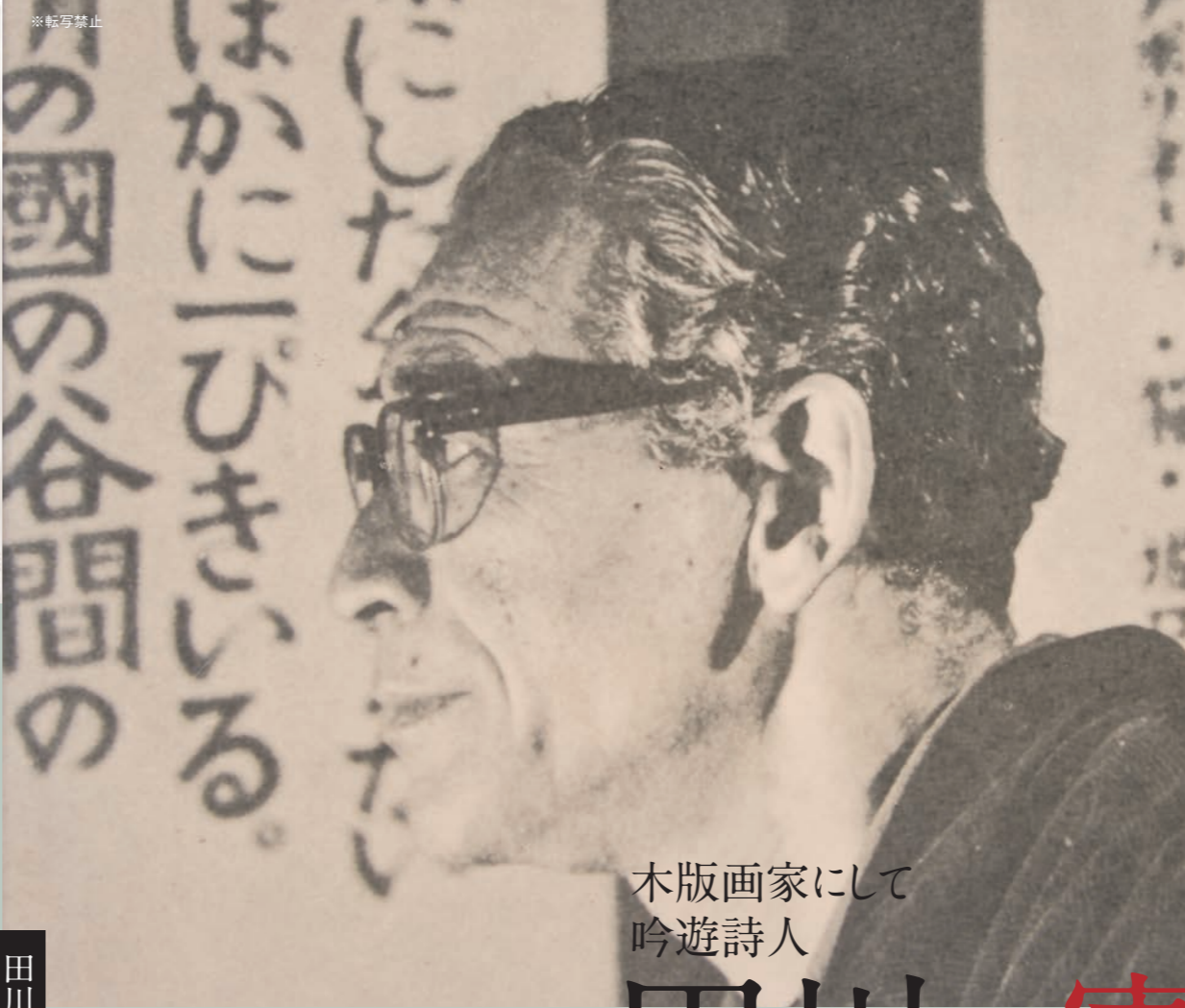
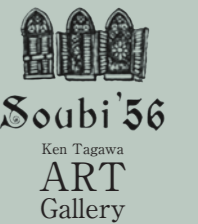
Close up

①



田川 由紀さん

プロフィール  
1971年長崎市生まれ。活水中学・高校から活水女子短大日本文学科卒。ホテル勤務を経て、現在出島の日新ビルでSoubi'56を主宰。Soubiは、大浦天主堂の十字薔薇（じゅうじそうび）の窓から命名。木版画とそれまつわる手記を掲げ一つの作品をより深く掘り下げていくスタイルで運営。下妻みどり著『ながさき開港450年めぐり』・田川憲の版画と歩く長崎の町と歴史（長崎文献社刊）に詳しく紹介されている。



木版画家にして  
吟遊詩人

# 田川 憲

田川憲（出生時、憲一）は明治39年に長崎市桜馬場に誕生する。長崎商業学校を卒業後、昭和2年洋画家を志し上京、当時の東京市小石川区（現在の文京区春日町）にあった川端画学校で学ぶ。そこで、版画芸術の先駆者、恩地孝四郎と出会い創作版画に傾倒し、昭和4年に木版画に転向。画家の卵たちと知己を結ぶ中で、憲は自らの才を活かす道を模索していったのであろう。木版画家への創作にとどまらず、同年、水道橋にあったアテネ・フランセにてフランス語を学んでいる。仏文学における詩とは喜びと苦悩を紡いだものである。憲は、あふれる情熱を画家としてだけでなく、詩人として表現していった。

この時期に日本を代表するフランス文学者にして詩人である堀口大聖と邂逅している。近代西洋文化の揺籃地であった長崎から出向いた田川憲という画壇の異才と仏文学の異才が同じ時間を共有するという、なんと贅沢なことであろうか。憲は、昭和8年に長崎に戻り、詩と版画の同人を主宰し、創作活動を精力的に展開する。昭和10年には国画会展と日本版画協会展に初入選。その後も創作意欲は衰えず、長崎居留地の数々の洋館や唐寺など長崎の風景を描き続ける。版を彫り、手記を残すことで、詩人としての足跡も残しているのだ。

憲と大聖、二人を結びつけたのは、ランボーであり、アポリネールであり、そしてコクトーであったことが、憲が鬼籍に入ったのちに大聖がその御霊を鎮魂する追悼詩で明かしている。曰く、「長崎の海をしのんで葉山の海と君を語ろうもういない君を語ろう」

長崎の海は憲が、そして葉山の海は大學が愛してやまなかつた場所、そして二人の終焉の地である。田川憲、昭和42年永眠、享年62。

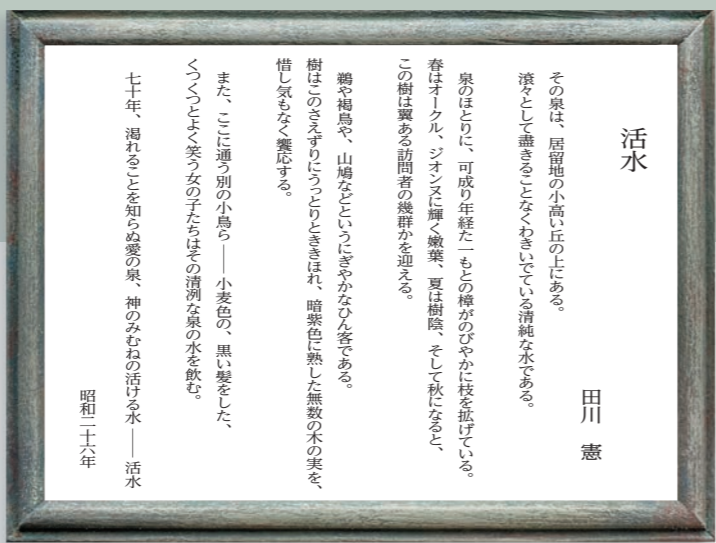
## 田川憲の足跡を追って

### アートギャラリーを訪ねる

長崎出島、路面電車が行きかう風景を窓越しに見る古びたビルの1階。そこに長崎を拠点に活躍した田川憲のアートギャラリー Soubi'56 Ken Tagawa Art Gallery がたたずむ。憲の作品をゆつくりと鑑賞できる素敵なスペースである。訪問した当日は、憲の孫にあたる俊さんの令夫人、田川由紀さんが迎えてくれた。

由紀さんは、憲の残した代表作のなかから一枚を選んでくれた。それは中央に石畳の坂道を描き、左手に東山手甲十三番館、右手に活水正門を描く作品である。手記は下記のように掲げられている。

爾来、時を重ねること70年、憲の孫夫婦によって改めて作品に息吹が宿った。憲の孫・俊さんは、活水育ちの由紀さんとともにアートギャラリーを開設したのである。



活水

田川 憲

その泉は、居留地の小高い丘の上にある。滾々と湧き出る水は清らかな水である。

泉のはどりに、可成り年経た一もの橋がのびやかに架けられている。春はオパール、ジオンズに輝く嫩葉、夏は樹陰、そして秋になると、この樹は翼ある訪問者の幾許かを迎える。

鶴や梅鳥や、山鳩をどいにかかひを客である。樹はこのさえずりにうっとりときほほれ、暗紫色に熟した無数の木の実を、惜し気もなく養育する。

また、ここに通う別の小鳥ら——小麦色の、黒い髪をした、くつくつとよく笑う女の子たちは、清冽な泉の水を飲む。

七十年、濡れることを知らぬ愛の泉、神のみむねの活ける水——活水

昭和二十六年

# 祖父の足跡 を伝え 継ぎたい



田川 憲 作「活水と十二番」

## 取材班の学生たちに語る 今も輝きを放つ 青春時代の東山手の丘

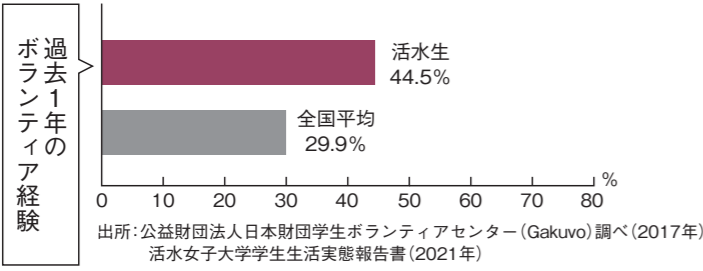
由紀さんは、今回の取材のなかで、活水の現役学生に繰り返し語った言葉がある。「憲が愛してやまなかつた東山手の丘で学んだ青春時代は今も色あせることなく輝きを放っている。伝統ある活水で学ぶことができることを誇りにこれからの人生を歩んでほしい。活水はわたしの青春のすべて。あなた方もその思いを常に持ち続けてほしい。」



Interview CREW

〈取材および記事作成〉  
健康生活学部生活デザイン学科2年  
前田 千智・松尾 奈南・松永 夏美・山口 紫福





過去1年のボランティア経験

全国学生ボランティア調査によれば、全国の女子学生（調査数5,000人）のうち調査時点で過去1年にボランティア経験のある学生は約30%、一方で本学学生（調査数871人）は約45%が何らかのボランティア経験があると答えています（上図参照）。全国調査と本学調査で実施時期に相違があり、単純に両者を比較することはできませんが、この2つの数字から本学の学生の意識はかなり高いということがいえるでしょう。ただコロナ禍においてサークル活動の自粛など、対面での活動は難しい状況にあります。オンラインでも出来るボランティア活動はないか、それを必要としている人の声に耳を傾け、実現のための道を模索する。ボランティアはお金で得ることとはできない大きな価値を手にする事ができます。皆さんにとって、その経験はかけがえのない財産になるでしょう。



【つなぐ FROM 活水のここ1年の活動】  
水辺の森公園クリーン大作戦、長崎しごと未来博運営、長崎大学ピースキャラバン隊協働など。

つなぐ FROM 活水は、かつて存在したボランティア支援委員会の流れをくむものです。無償の人助けはとても尊い行為だと思います。そして自分たちの思いが通じて感謝の言葉をいただく、それがやりがいにつながります。ボランティアをさせていただける喜びを仲間と共有していきたいです。（英語学科2年 坂口 佳南 部長）

一つの目標に向かってさまざまなステップを踏んで実行に移す、そしてやり遂げた時に味わう達成感、それはとても爽快です。同じような志を持った同世代の仲間との出会いから多くのことを学ぶことができます。一人ではなかなか行動に移す勇気が出ませんが、みなで最初のステップを踏み出してみませんか。（英語学科2年 田畑 桜華 副部長）



「わたしもやってみよう」という方は  
学生地域連携活動支援事業「U-サポ」へ

詳しくは学生生活支援課、または長崎大学「やってみようでスク」HPまでお問い合わせください。



学生生活支援課



やってみようでスク



## サークル アクティビティ

①

## 活水の ボランティア 事情

## 先輩たちからのバトンを受け継いで

〜未来につなぐわたしたちの思い〜

活水女子大学ボランティアサークル…つなぐFROM 活水



## 大学授業 最前線

①

## 異文化をつなぐ架け橋として 活水女子大学の Online Class

国際文化学部英語学科、日本文化学科では主に1年生を対象に、将来のキャリア形成の参考になるように、基礎教養科目として「グローバル企業を知るーII」（担当教員・上野葉子先生ほか）を開講しています。その一環として2021年度は10月、11月にグローバル企業で活躍する管理職女性をお招きしオンライン授業を行いました。

イタリアの名門オリベッティ本社のボンテンポさんからは、女性が社会のなかで生き抜いていくために必要な知恵や、文学や音楽などの教養の重要性を示唆いただきました。

また京セラ北米統括会社に勤務する音羽さんからは、自分がルールを作る側（ルールメーカー）になれることや、ニューヨークで茶道をたしなむことで心安らかに穏やかな状態でいられることを教わりました。企業の司令塔として活躍する彼女らから共通して教わったことは、意外にも（？）リベラルアーツの重要性です。専門領域だけではない、芸術や文化など知識の交流が信頼関係の醸成において大変有益だということも教えていただきました。

2021  
11/30 Online Lecturer



音羽 幸子さん

米国・京セラ Inc. 企業戦略部マネージャー  
〈日時〉2021年11月30日  
ニューヨーク現地時間/  
前日午後6:50~8:20

### 受講者の感想

「挑戦しないことが最大のリスク」、「失敗は笑顔でいるための経験」など、これから先の人生で、迷うことや心が折れそうになった時に立ち直るヒントになるようなキーワードを音羽先生から教わりました。これらの言葉を忘れずに有限な時間をどれだけ有効に使えるか残りの学生生活を大切にしていきます。



英語学科2年  
濱口 郁音さん

2021  
10/26 Online Lecturer



ナディア・ボンテンポさん

イタリア・オリベッティ S.p.A.  
マーケティング部門 シニアディレクター  
〈日時〉2021年10月26日  
トリノ現地時間/同日深夜1:50~3:20

### 受講者の感想

ボンテンポ先生の授業を通してグローバル企業に関心を持ち、講義から多くのことを学びました。仕事での自己管理の重要性、責任、信頼、人間関係、有意注意、仕事での達成感など。周囲の人の信頼と信用を得る方法をさらに学んでいきたいです。



日本文化学科2年  
グエン・ティ・ホアイ・アンさん





2022 年度  
**NEW FACE**

よろしくお願ひします



大学

ふるいえ としあき  
**古家 敏亮**  
国際文化学部日本文学学科  
准教授  
国語科教育、日本文学分野



大学

カレン ストライドム  
**Karen Strydom**  
学院宣教師/国際文化学部英語学科  
講師  
英語



大学

こばたけ たくみ  
**小畑 拓未**  
健康生活学部生活デザイン学科  
助教  
建築環境学



大学

みずの じゅんこ  
**水野 順子**  
音楽学部音楽学科  
助教  
音楽療法



大学

なかむら ひとし  
**中村 仁**  
音楽学部音楽学科  
助教  
声楽、音楽科教育法



大学

たつた ゆみこ  
**龍田優美子**  
学院オルガニスト/音楽学部音楽学科  
講師  
パイプオルガン



大学

なかお やえこ  
**中尾八重子**  
看護学部看護学科  
教授  
公衆衛生看護学



大学

ふくい けんいちろう  
**福井謙一郎**  
健康生活学部子ども学科  
講師  
教育心理学



大学

たなか きみこ  
**田中生弥子**  
健康生活学部子ども学科  
講師  
学校保健



大学

しまだ ともかず  
**島田 知和**  
健康生活学部子ども学科  
講師  
保育学・幼児教育



学院

こば ひでゆき  
**木場 英之**  
事務局  
(事務局次長)



中高

こにし みか  
**小西 美香**  
教諭  
英語科



大学

にしきど よしえ  
**錦戸 慶恵**  
看護学部看護学科  
助教  
成人看護学



大学

まみや  
**間宮みどり**  
看護学部看護学科  
講師  
成人看護学



大学

ひらまつ はるか  
**平松 遥香**  
健康生活学部食生活健康学科  
実習助手



大学

いわたなが もえ  
**岩永 萌**  
健康生活学部食生活健康学科  
実習助手



学院

うらかわ じろう  
**浦川 二良**  
事務局管財課  
(技能職員)



学院

やまだ まこと  
**山田 真**  
事務局経理課  
(経理課長代理)



院長の  
ライブラリー



ギリシア文化圏ではたとえはよく用いられたようです。例えば、人の成長は種が蒔かれた土地の環境に左右され、良い土地に蒔かれた種は成長するたと言。富と徳とは両立しないことや、身体の一部が痛めば身体全体がその痛みを分かちあうことのとえ等。

右記のたとえは新約聖書でイエスが用いたたとえ話として有名です。イエス・キリスト誕生の三五〇年以上前、プラトンは『国家』の中でこれらのたとえを使いました。ことばを重んじ、若者との対話を大切にされたプラトンが「キリスト以前のクリスチャン」と呼ばれるのは、愛や徳などキリスト教的価値に相通じる哲学を、ソクラテスに登場させ語らせています。

『国家』や『法律』は文庫版でも上・下に別れる大書ですが、『饗宴』(シンポジオン)はエロス(愛)について、ソクラテスが真の知恵へと友人らと対話により誘導する短い作品です。知識を見せびらかすのでなくワインを飲みながら、横長椅子に寝そべっているのが当時のシンポジウムです。これなら話が弾むと羨ましく思います。ギリシア文明のゆとりとその後の宗教と文化への影響の大きさを感ずる作品群です。

院長のイチオシ

「饗宴」

プラトン 著/久保 勉 訳

出版社：岩波書店 改版  
発売日：2008/12/1



「想像するちから」

松沢 哲郎 著

出版社：岩波書店  
発売日：2011/2/26

「チンパンジーが教えてくれた人間の心」という副題がついています。「人間とはなにか」という問いに対して、ヒトに一番近い動物とされるチンパンジー研究を通して洞察していく書物です。



「失敗の本質」

戸部 良一ほか 著

出版社：中公文庫  
発売日：1991/8/1

旧日本軍の戦略的失敗を浮き彫りにしています。これらは現代社会にも通じるさまざまな慣習として受け継がれています。例えば、曖昧な指示命令、過剰な付度、そして失敗を認めない組織構造など。失敗の本質から学ぶべきことは多々あります。



活水学院中期計画 2022-2026

2022年度からスタートする中期計画は、変革の時代の潮流をとらえつつ、学院が有してきた創立以来のキリスト教の精神を中核にすえ、専門的かつ実践的な職業人女性の育成という使命を果たすための具体的な行動指針です。

## KWASSUI VISION 2029

### 基本方針

- 1 「建学の精神」を土台とする人格教育とキャリアデザインの構築
- 2 地域社会に根ざした知的インフラの構築と研究推進力の強化
- 3 地域密着による社会連携、貢献と生徒・学生の多様な価値を尊重する教育実践を通じた職業人女性の育成
- 4 入学前・在学中・卒業後の一貫した学修者支援の体制構築と生涯教育の実現
- 5 学院広報の強化並びに活水プライドの醸成
- 6 各施策を実現するための健全かつ安定した財務基盤の構築



活水学院への寄付のお願い

■ 寄付金の目的

大学教育環境整備や中学・高等学校教育活動支援資金の充実を図り、学生生徒により充実した教育環境を提供するために使用します。

活水学院のさらなる発展のため、そしてなによりも活水学院に集う未来の学生生徒のために皆様の篤志をお願い申し上げます。

尚、寄付に対する税制優遇措置につきましては、右のQRコードまたは、

活水学院 ご寄付 検索

にて詳細をご確認いただけます。



活水学院創立150周年記念事業  
(予告)

活水学院は、きたる2029年に創立150周年を迎えます。明治開国期の創立以来、活水学院が築いてきた大切な伝統を礎に、地域や国際社会の発展に貢献する女性の育成に努めながら、学院は新たな価値を地域社会のステークホルダーとともに作り上げてまいります。そこで、今後7年間にさまざまな環境整備事業や芸術文化活動を計画してまいります。詳細は追ってご案内申し上げます。

読者アンケート

活水学院報リニューアル創刊号「Living Water」に関するご意見、ご要望をお寄せください。下のQRコードよりご入力ください。



- 池永 碧様
- 田中由美子様
- 内村 直子様
- 山崎まどか様
- 赤城久仁枝様
- 奥山浩一朗様
- 松尾 洋子様
- 太田 昭子様
- 永吉美恵子様
- 石橋 真紀様
- 活水同窓会様
- 小林 智子様
- 合同メソジスト教会 女性局 (UMW) 様
- 【100万円以上】
- 活水父母会様
- ※匿名様 12名
- 29名様合計
- 1千455万7千円

- 【2万円以上】
- 大塚 和子様
- 林田功一郎様
- 平崎 悟様
- 湯口 隆司様
- ※匿名様 13名
- 24名様合計
- 61万5千円

- 【5千円以上】
- 渡邊 明様
- 濱口 勝幸様
- 森川眞樹子様
- 池 政信様
- 吉田 和代様
- 奥平 昌子様
- 高榎 尚一様
- 【10万円以上】
- 湯口 隆司様
- ※匿名様 13名
- 24名様合計
- 61万5千円

活水学院への皆様のご支援に心より御礼申し上げます。ご寄付いただきました皆様のご芳名を感謝をもって掲載させていただきます。

寄付者ご芳名  
(2021年4月)  
2021年12月迄





# 大久保先生と 共に歩み目指した 女性教育の道



大久保正夫先生(1907-2005)  
活水学院理事長  
第5代院長、第5代短大学長  
第6代中高校長を歴任



田川 憲作「港へ下る道」

活水学院に私が日本文学の専任講師として赴任したのは、1974（昭和49）年4月であるから、ほぼ半世紀も前のことになる。それは戦後民主主義が日本社会の各分野に及び、特に経済面での発展成長に伴う就学、進学生徒数の急増へと進む時期でもあった。

4月最初の始業礼拝に向かうオランダ坂で、私は大久保正夫新院長と初めて出会った。大久保先生が新院長として着任したのも、私と同じ年度からであった。以来先生のもとで、短大に日本文学科を開設（1977年）、100周年記念事業（1979年）、4年制大学開学（1981年）へと次々に新しい事業を起こし、学院は目覚ましい発展を遂げていく。



奥野政元  
第5代活水女子大学学長  
を経て、活水学院理事長・  
第13代院長を歴任

## Living Water

春夏号 通巻115号

発行日：2022年5月

発行元：活水学院

編集：学院広報誌編集委員会

〒850-8515 長崎市東山手町1-50

TEL 095-822-4107(代表)

<https://www.kwassui.ac.jp/>

活水女子大学 東山手キャンパス

〒850-8515 長崎市東山手町1-50

TEL 095-822-4107

活水女子大学 大村キャンパス

〒856-0835 大村市久原2丁目1246-3

TEL 0957-27-3005

活水高等学校・活水中学校 宝栄町キャンパス

〒852-8566 長崎市宝栄町15-11

TEL 095-861-5176



活水学院

※活水学院では、各種印刷物に使用する紙資材をFSC認証紙に切り替えることで、環境負荷を低減させ、持続可能な森林資源の活用を積極的に進めております。本誌もFSC認証紙を利用しております。

©Kwassui Gakuin. All Rights Reserved.